

ティーチング・ポートフォリオ・チャート 作成研修会の実施報告

奈良隆章¹⁾, 河合季信¹⁾, 神藤隆志¹⁾, 仲澤翔大¹⁾, 工藤重忠¹⁾,
金谷麻理子¹⁾, 三橋大輔¹⁾, 永田真一¹⁾

Report on the Teaching Portfolio Chart Workshop

Takaaki NARA¹⁾, Toshinobu KAWAI¹⁾, Takashi JINDO¹⁾, Shota NAKAZAWA¹⁾,
Shigetada KUDO¹⁾, Mariko KANAYA¹⁾, Daisuke MITSUHASHI¹⁾, Shinichi NAGATA¹⁾

1. はじめに

筑波大学体育センター研究委員会(以下、「研究委員会」とする)では、本誌「大学体育研究」における論文種別「ティーチング・ポートフォリオ」(以下、「TP」とする)の投稿を促すために、TP作成に関する研修会を開催した。

TPとは、教員が自身の教育活動について行った自己省察に基づいて記述された本文と、その内容を裏づける根拠資料から構成される文書のことであり(セルディン, 2007; 栗田, 2021)、本誌においても、大学体育教員における教育活動の改善と教育業績の可視化を促進すべく、2019年に論文種別の一つとしてTPが設置された。本誌の投稿規定においてTPは「自らの大学体育授業実践を振り返り、自らの言葉で記し、多様な根拠資料によってその記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録」と定義されており、多くの大学体育授業実践者からの投稿が期待されていた。しかしながら、これまでのTPの投稿件数および掲載件数が極めて少数で

あった(木内, 2021)ことから、研究委員会においてその打開策を講じることとなった。その中で、TPに対する理解や認知が不十分であることが投稿に至らない要因として挙がり、作成目的や作成手順を学ぶ機会を設定する必要があることが確認された。そこで、研究委員会では、わが国におけるTPの第一人者である、東京大学栗田佳代子教授に研修会の講師を依頼した。

2022年5月18日に、栗田先生との事前打合せを行い、研修会の企画に至った経緯と研修会開催の目的を伝えた。その結果、研修会では、「TPの基本概念」と「ティーチング・ポートフォリオ・チャート(以下、「TPチャート」とする)の作成方法」の2点を中心に説明していただくことになった。特に、教育活動の振り返りを効果的に行うためのツールであり、TP作成に向けた事前準備のツールでもある「TPチャート」の作成方法(栗田・吉田, 2021)を中心に説明していただくことになった。

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

2. 講師紹介

本研修会の講師を務めていただいた栗田佳代子先生は、東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センターに所属し、大学総合教育研究センターの副センター長を兼任している（東京大学，online）。専門分野は「高等教育」，「ファカルティ・ディベロップメント」であり，「教員のポートフォリオ」，「ブレFD」，「大学の質保証」などをテーマに研究を行っている（東京大学大学総合教育研究センター，online）。TPに関する数多くの学術論文，著書を執筆するなど，国内外で活躍している。

3. 日程および会場

令和4年7月27日（水）午後1時より，筑波大学体育・芸術エリア5C棟216教室にて実施した。

4. 参加者

参加者は18名であった。その内訳は，筑波大学の体育系教員16名および大学院生2名であった。

5. 研修会の内容

本研修会のプログラムを表1に示した。はじめに，河合季信研究委員会委員長より本研修会を開催するに至った経緯と本研修会の目的が説明された。続いて，講師紹介が行われた後，栗田先生によるご講演が開始された。栗田先生からは，「TPとTPチャートの説明」，「TPチャートの作成」，「TPチャートの見直し」の3点について，ご講演いただいた。

「TPとTPチャートの説明」では，はじめに，TPについて「教育改善」と「教育活動の可視化」という2つの目的について詳細にご説明いただいた。また，TP作成の事前準備として利用されるTPチャートについて，「個人の教育活動の視覚的整理」や「自己省察による俯瞰と構造化」などの特徴をご説明いただいた。さらに，

TPチャートの実例をご紹介いただいたうえで，TPとTPチャートの関連や差異についてもご説明いただいた。

「TPチャートの作成」では，はじめに，参加者同士で二人組をつくるよう指示があり，その後，各参加者に配布されたA3判のワークシートと異なる色や大きさの付箋を用いながら，栗田先生の指示に従い作業が進められた。ワークシート内の各項目について，制限時間内に自身の教育活動を振り返るよう指示があり，その記載内容について各ペアで複数回シェアが行われた。栗田先生の指示に従いながら，ワークシートへの書き込み（付箋の貼付）とシェアを繰り返した結果，各参加者のTPチャートが作成された。はじめのうちは，制限時間内に必要事項を記載することに戸惑う参加者が散見されたが，次第に慣れていく様子が確認された。各べ

表1 TPチャート作成研修会のプログラム

- | |
|---------------|
| 1. 開会挨拶 |
| 2. 講師紹介 |
| 3. 栗田先生によるご講演 |
| ①TPとTPチャートの説明 |
| ②TPチャートの作成 |
| ③TPチャートの見直し |
| 4. 質疑応答 |
| 5. 閉会挨拶 |



写真1 TPチャート作成研修会の様子

アで行われたシェアについては、終始和やかな雰囲気の中、活発な意見交換がなされていた。なお、作業内容の詳細については、本報告において記載を行わないため、栗田先生のウェブサイトに掲載されている「紙のチャート作成を想定した説明動画」(栗田, online)を参照されたい。

「TPチャートの見直し」では、はじめに、TPチャートを見直す意義についてご説明いただいた。その上で、教育の「理念」と「方針」に着目しながら、各ペアにおいて見直しを促す質問が行われた。「TPチャートの作成」を通じて、各参加者の思考が整理されたためか、各質問に対して具体的かつ詳細な回答が増えるなど、各参加者が自身の教育活動の振り返りをより深く行っている様子が確認された。

本研修会の閉会に際し、本間三和子体育センター長より挨拶があり、栗田先生への謝辞が述べられた。

6. 研修会終了後の振り返り

本研修会を企画した研究委員会において、研修会終了後の振り返りを行った。その中で、各委員に対して研修会への参加を通じた感想を記載するよう求めた。その際、①研修会全体の感想、②自身の教育改善に役立った点、③今後のTP作成に向けた意気込み、の3点を中心に記載するよう伝えた。以下に、6名の委員から提出された感想を示す。

①研修会全体の感想

「今回の講演会を通して、TPについて初めて学ばせていただきました。講演会参加前は、『授業・教育経験が浅く、書き出せることはあるだろうか』という不安を持っていました。しかし、教えていただいた手順に沿って自身の経験や考えなどを書き出していただけて、自身の教育活動について深く振り返ることができました。その中には、自覚していなかった部分も含まれており、TPチャートを作成する意義を感じまし

た。」(委員1)

「TPへの理解を深めること、また実際にTPチャートを作成することによって『自身の教育理念の確認・明確化』することを目的として、講演会に参加した。この講演会に参加する前までは、本職に就いて四半世紀が経過し、自分なりにある程度教育理念や方法が確立されてきたと考えていた。しかし、実際に講演を聞き、講師の指示にしたがって作業を進めてみると、上記の考えがいかに漠然、曖昧なものであったかを知ることとなった。また、これまで認識してこなかった自身の教育目標の『その先にあるもの』にも気づくことができた。さらには、自身の考えを作業パートナーに話す際には『気恥ずかしい』と感じることがあり、実のところ普段あまりこのような行動をしていないということもわかった。さまざまな意味で大変有意義な講演会であったと思う。」(委員2)

「教員のPDにおいて、ティーチングに関する研修が少ないと感じていたので、今回のTP講演会は非常に意義深いものであったと思いました。いただいた情報は博士後期課程の学生や若手の先生方に特に役に立つものであったと考えます。それを考えると、次回はもっと博士後期課程の学生に参加を促すのがよいかもしれません。」(委員3)

「Teaching Portfolioは、自分の指導を見直すよい機会になることや、第三者の意見を聞くことができるので、特に教育方法論(?)に研究主眼をおかれている方々にはよいツールだと感じました。」(委員4)

「多くのワークショップの結果に基づき、よく計画された内容だと感じた。1枚のワークシート(TPチャート)を使って、自身の教育を振り返り、ティーチング・ポートフォリオ作成へとつなげていくための準備ができるものであった。

今回は同じ体育系の教員とペアを組み、シェアとディスカッションを行ったが、初対面の人や異なる分野の人と組むことで、より客観的に自身を見つめることができると感じた。一方、ごく短時間でのワークであったこともあり、深い省察には至らなかったという印象を持った。やはり、ティーチング・ポートフォリオを作成するぐらいの時間と作業量が必要だと感じた。」(委員5)

「2時間半という長時間の講演会であったため、参加するにあたり少し覚悟しながら臨んだが、取り組んでいるとあっという間に終わってしまった感覚であった。また、ティーチング・ポートフォリオに必要なTPチャートを実際に作成したが、栗田先生の素晴らしいご指導もあり、比較的気楽に伸び伸びとした気持ちで作成することができ、自身の教育実践を省察する良い機会となった。また、ペアワークという形で他の先生方のTPチャートについて触れることができ、先輩の先生方がどのような理念を持って教育を実践しているのか、そしてその理念を掲げるに至った背景にはどのような経験や考え方が紐づいているのかを知ることができ、今後の教育実践にとって非常に有意義な刺激となった。そのペアワークの際、ペアを組んでいただいた先生に『〇〇先生(委員6)の人となりが少し分かった気がする』とおっしゃっていただいたが、このようにTPを通じてその人の教育理念を理解することができる可能性を感じたので、欧米ではTPが就職で活用されているという話は理に適っていると感じた。」(委員6)

②自身の教育改善に役立った点

「自身が教育で直面する課題や出来事に対して、どのような考えで、どのような対処をしようとしているのかを客観的に振り返ることができました。このように自身の教育活動への理解が深まることで、普段の授業のふとした場面で、迷いなく行動できたり、自信を持てたりするよう

に思いました。一方、根拠資料は意識しなければ蓄積されていかない部分であると感じましたので、今後はちょっとしたことでも客観的な記録が残せるように心掛けていこうと思いました。」(委員1)

「TPチャートの作成を通して、自身の教育活動における真の目標を明確に認識できたことが一番の収穫であった。これによって、自身の教育の内容や方法の根拠がさらに明確になり、以前よりも目的的に、純粋に教育活動に取り組めるようになったように思う。一方、そのような中で目標に対する取り組みが、いまだ抽象的な点や不十分な点、未熟な点も浮き彫りになってきたことから、それらの点を今後改善していきたいと考えている。」(委員2)

「今回の研修で、自分のティーチングを全体的に見直すことができ、今後どのようにしていきたいか、次のステップが明確になったような気がします。特に役に立ったと思った研修のアクティビティは、自分のティーチングアプローチを文字に起こして他者に説明することでした。文字に起こすこと自体、自分の頭の整理ができ、理由もなくなるとなく行っていたところが明らかになりよかったですと感じました。また、他者へ説明すること、フィードバックをもらうことにより、自分の考える教育哲学的なアプローチの(ある程度の)妥当性について考えることができたことがよかったですと感じました。また、学生の学びが第一と考え、それに向けて教員に何ができるかという姿勢が大事であることも学ぶことができ、今後の教育活動に活かしていけるのではと思いました。」(委員3)

「自分の経験を今回パートナーになった先生に伝えることで、現在の自分の考えをまとめることができたと思います。」(委員4)

「自身の根底にある教育理念を知ることができ

たのは発見であったが、それが教育改善に役立つというところには至っていない。」(委員 5)

「TP チャート作成の手續きとして、初めに自身の立場や役職など具体的な『責任』から自身の掲げる教育への『方針』や『理念』、そしてそれらを掲げるに至った『経験』を書き出すというように、逆算して自分の教育理念をあぶり出すような手法であると感じ、そこで炙り出された自身の教育理念を改めて見つめ直したとき、自分として納得の行く教育理念であったため、今までやってきたことは間違っていなかったと思うことができた。そのため、その後の教育実践では自信を持って学生に接することができるようになったと感じている。ここで炙り出された教育理念は不変のものではなく、自身の立場や環境が変わっていくにつれて変化して然るべきものであり、いつまでも今回のものにこだわらずにアップデートしていくべきであるが、その教育理念の『軸』は揺らぐことなく貫きたいと強く感じている。」(委員 6)

③今後の TP 作成に向けた意気込み

「今回の経験から、TP チャート作成には教育経験の浅さ・深さは関係ないと感じました。むしろ、なるべく早い段階で TP チャートの作成や見直しに取り組んでいくことで、教育に関する悩みの解決や自身の現状把握につながれそうだと思います。また、自身の TP チャートが経年的にどのように変化していくのかという点もぜひ見てみたいです。ご紹介いただいた参考書籍などにあたりながら TP への理解をさらに深め、将来、TP の公表にも取り組みたいです。」(委員 1)

「今回のような作業を一定期間ごとに繰り返し、自身の教育活動の目標や根拠の理解をより深めていくことによって、教育能力はより高まっていくと考えられる。今後は教育成果の検証も含めて、このような機会があれば是非取り組んで

みたい。」(委員 2)

「自分のティーチングの中で、なぜこれをするのか、と考えられるようになってきました。まだまだ記述して残すというところまではいきついていなく、先は長そうです。TP は教員の教育能力向上に寄与すると思うので、今回の研修のようなもの(もしくはワークショップ)を定期的に行っていく等を大学として支援していくのはとても良い投資なのではと思いました。」(委員 3)

「申し訳ないのですが、現在はまだ興味がないです。」(委員 4)

「まずは今回作成した TP チャートを元にして、一度 TP を作成してみたいと考えている。また、先も述べたように自身の立場や環境の変化によって TP の内容は変わって然るべきなので、しばらく教育実践に励んだのち、改めて取り組んでみたいと感じている。」(委員 6)

7. まとめ

研究委員会で企画および開催した「ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成研修会」を通じて、参加者の TP および TP チャートに対する理解を深められたと自負している。また、本研修会における TP チャートの作成を通じて、参加者の TP 作成に向けた準備を整えられたものと推察する。本研修会の参加者 18 名に対して行った事前調査では、10 名が今後 TP を作成予定であると回答した。このことから、大学教員の TP 作成に対する意欲・関心の高さが窺え、本研修会における学びは、その意欲・関心を TP の作成・投稿に向かわせるものであると確信している。一方で、実際に TP の作成を行う際には、メンターと呼ばれる作成支援者の支援を伴う短期集中型(3日間程度)のプログラムへの参加が推奨されており(栗田, 2020)、一定の労力や時間を要することになる。

その労力や時間を上回る価値（栗田・吉田，2021）を研究委員会としても発信することで、本誌における TP の投稿数ならびに掲載数の増加につなげたい。

最後に、本研修会の企画から開催に至るまで多大なるご協力をいただいた栗田佳代子先生に改めて感謝申し上げ、本報告を終えることとする。

文献リスト

木内敦詞，ティーチング・ポートフォリオ・チャートの大学体育への適用：教職歴 30 年の大学教員の事例報告，大学体育研究，43，137-144，2021.

栗田佳代子，<https://kayokokurita.info/post-578-2.html>，2023.1.6.

栗田佳代子，ティーチング・ポートフォリオを作成する，佐藤浩章，栗田佳代子編著，シ

リーズ大学の教授法 6，106-114，玉川大学出版部，2021.

栗田佳代子，大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ，大学評価研究，19，55-63，2020.

栗田佳代子，吉田 暁，リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座，18-54，医学書院，2021.

セルディン，P，大学教育を変える教育業績記録：ティーチング・ポートフォリオ作成の手引き，栗田佳代子（訳），玉川大学出版部，2007.

東京大学，https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/people/k0001_00004.html，2023.1.6.

東京大学大学総合教育研究センター，<https://www.he.u-tokyo.ac.jp/staff-item/kayokokurita/>，2023.1.6.